

し
知っておこう!

いっしょに暮らす動物の健康・病気のこと **トリ・ハムスター** もくじ

はじめに

みなさんの家はペットを飼っていますか？
身近にペットを飼っている人はいますか？

日本には、イヌやネコのほかに、
インコやブンチョウなどのトリ、
ハムスターを飼育している家庭がたくさんあります。

この本では、みなさんがトリやハムスターと、
少しでも長くいっしょにいられるように、
知っておいてほしいこと、
考えてほしいことをしょうかいしています。

どうしてトリは高く飛べるの？
ハムスターのほお袋はどのくらい入るの？

そのこたえは、この本の中にあります。

ペットは大切な家族です。
健康で、少しでも長く生きられるように、
トリやハムスターの体のしくみや役割、

病気のことなどを学んで、毎日のお世話にいかしてください。

はじめに 2

トリの体のしくみ 4

- くわしく知ろう 体 6
- ▼ トリの状態を見よう 8
- ▼ これって病気？ 10
- ▼ 動物病院で健康チェック 12
- ▼ トリのごはん 14
- ▼ 運動とお手入れ 16
- ▼ トリの暮らしを守ろう 18
- ▼ 年をとってからの飼い方 20

ハムスターの体のしくみ 22

- くわしく知ろう 体 24
- ▼ ハムスターの状態を見よう 26
- ▼ これって病気？ 28
- ▼ 動物病院で健康チェック 30
- ▼ ハムスターのごはん 32
- ▼ 運動とお手入れ 34
- ▼ ハムスターの暮らしを守ろう 36
- Q A おしえて！ 獣医さん 38



この本の内容や情報は、制作時点（2023年11月）のものであり、今後変更が生じる可能性があります。

トリの体のしくみ

からだ

トリは、羽をはばたかせ、空を飛ぶことができる生きものです。はじめに、トリの体のつくりや機能について知っておきましょう。

目

視力がよく、速く動くときにも、周りがはっきりと見えます。動いている物を見つけるのも得意です。

鼻

くちばしの上のほうに2つの穴があいていて、ここから空気を吸ったりはいたりします。

羽毛

トリの体は正羽、綿羽、毛羽の3種類の羽毛でおわれています。生えている場所によって名前や役割がちがいます。羽は何度も生えかわります。

くちばし

口の中に歯はありません。くちばしで食べものを小さくくわいて、そのまま飲みこみます。

足

ヒトの足の指にあたる部分を「あしゆび」といいます。ブンチョウは、前に3本・うしろに1本あって、これをうまく使ってピョンピョンとはねながら歩きます。「あしゆび」の数や形は、トリの種類によってちがいます。

尾羽

飛ぶときにバランスをとったり、止まるときにブレーキをかける役目をします。

足のひみつ

トリの足はヒトとはちがう特別な構造になっています。力をかけなくても止まり木ににぎり続けられるため、長い時間木に止まっています。



インコは前とうしろに2本ずつあしゆびがある。

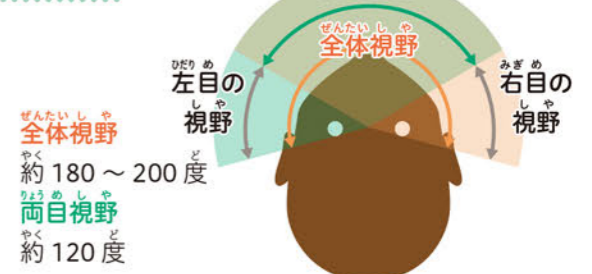
全体がよく見える目

トリの眼球はとても大きく、左右の目は、脳よりも重いとわれます。眼球の表面は平らなので、ヒトよりも広く見渡すことができます。

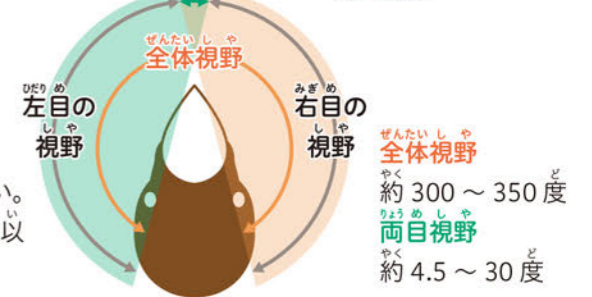
また、左右の目を別々に動かして、それぞれちがう物を見ることもできます。これらの目の機能は、いろいろな方向から来る敵をすばやく発見したり、エサを見つけたりすることに役立ちます。

トリの両目視野は、とてもせまい。しかし全体視野は広く、真うしろ以外ほとんど見える。

ヒトの視野



トリの視野



いろいろな役目をする羽



トリは、羽をうまく使いこなして生活しています。つばさに生えている羽は、飛ぶときの動きを助けます。また、体を包んでいる羽は、雨やどろをはじいたり、外からの刺激や障害物などから身を守ったりしています。

羽の中でも、綿羽というふわふわした部分は、空気をたっぷりふくむため、保温力が高いのが特徴です。この綿羽をふくらませて、冬は温かくすごすことができます。

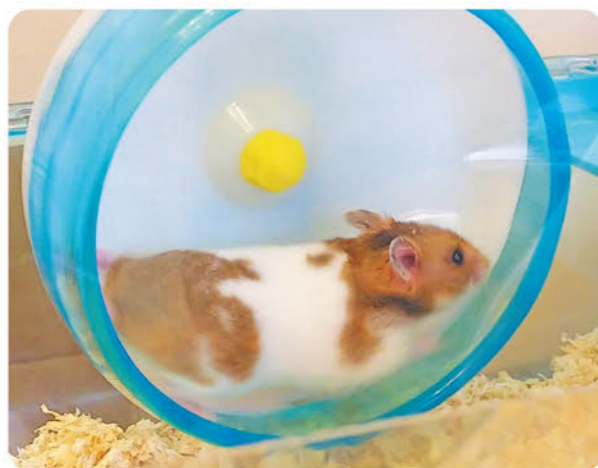
運動とお手入れ

ハムスターの健康を守るために、適度な運動と体のお手入れが大切です。楽しく遊びながら体を動かせるようにして、太りすぎを予防しましょう。

ハムスターはいつも運動不足

野生のハムスターは、1日に5～20kmも走るともいわれているため、ケージの中にとどいても運動不足になってしまいます。運動不足だと体重がどんどん増えて、心臓や肝臓の病気になる可能性があります。また、糖尿病になる可能性も高まり、体に大きな負担がかかります。

飼い主が意識して、ハムスターを運動させることが、健康的な暮らしにつながるのです。



運動はケージの中に回し車を置くことが一般的。

室内での散歩は注意しよう



ハムスターの運動は、遊びながら運動ができるケージの中の回し車を中心です。もし、小動物用のサークルで室内に仕切りをつくることのできるなら、その中にハムスターを放して、広い場所で散歩を楽しませてあげることができます。

しかし、サークル内で遊ばせるときは、サークルの外に出てしまったときのための対策をしておく必要があります。カーテンや部屋のドアをしっかりしめ、にげ出さないように気をつけます。また、かじられるおそれのある電気コード類は、かくしておきましょう。

体重を量って記録しよう



食事と運動に気をつけながら、1週間に1回は体重を量り、記録しておきましょう。ハムスターは元気に動き回るので、透明のプラスチックケースに入れて、はかりに乗せて量ります。ケースの重さの分は、後から引くと体重がわかります。

太ってしまったら、急に生活習慣を変えるのではなく、食事メニューやバランスを見直してみるなど、少しずつ改善していきましょう。

必要なときにブラッシング

ハムスターは自分で毛づくろいをするため、ブラッシングは基本的に必要ありません。しかし、春と秋、毛が生えかわるために大量に毛がぬけるときや、毛の長いハムスターはブラシでといてあげましょう。毛並みにそって、やさしくなでるようにブラシを動かします。

背中を中心にブラッシングをしてみて、ハムスターがいやがらなければ、おなかや頭にもブラシをかけてあげましょう。

